



頭ヶ島天主堂

五島列島
新上五島町
Shinagino Town

頭ヶ島天主堂は随所に花のモチーフが施されており、「花の御堂」とも呼ばれている。

頭ヶ島天主堂は上五島の中でもぜひ見ていただきたい場所です。



上五島ふるさとガイドの会の
上原さん

頭ヶ島天主堂は随所に花のモチーフが施されており、「花の御堂」とも呼ばれている。一九一九年に建てられた日本でも珍しい石造りの教会堂は、完成までに十年もの歳月がかかったという。ガイドの上原照子さんがその理由を教えてくださいました。「教会堂はすべて信徒たちの浄財で建てられています。信徒たちは生活費を削ってはお金を貯めて石段を、お金を貯めて今度

めて石段を、お金を貯めて今度は石垣を...というように、少しずつしか建設を進められませんでした」。教会堂の裏手にまわる、窓枠の跡が見られた。「ここには本来ステンドグラスを施す予定だったようですが、資金が足りず、諦めたそうです。なんとも切ないお話ですね」。建造には、頭ヶ島周辺や目の前のロクロ島から切り出された砂岩が使われている。重機のない時代、三百キロ以上の石を六百三十個ほど積み上げたことを思うと、信仰の深さが伝わってくる。石に



石にノミで刻まれた数字を見ると、この教会堂が信徒たちの手で造られたことを実感する。

新上五島町

信徒たちが積み上げた石造りの教会堂。

新 上五島町には二十九の教会堂がある。その多くが二百五十年にも及ぶキリシタン禁教令下で信仰を守り続けた信徒の子孫たちの奉仕によって建てられた。中でも世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産である「頭ヶ島の集落」にあるのが「頭ヶ島天主堂」だ。

めて石段を、お金を貯めて今度は石垣を...というように、少しずつしか建設を進められませんでした」。教会堂の裏手にまわる、窓枠の跡が見られた。「ここには本来ステンドグラスを施す予定だったようですが、資金が足りず、諦めたそうです。なんとも切ないお話ですね」。



教会堂の裏手で
見られる窓枠の跡